

番目に収めた日記文学についての論攷の抜刷をサイデンステッカー教授にも送ったところ、次には物語文学について同様な考察を期待するとの礼状を貰い、私ももちろんその気はあるが、取り紛れて今のところ果たさずにいる。また I・II の諸論攷に挙げた業績の中には、書評をして日本の学界に紹介したいものも多く、できればいつかその機会を得たいと思っている。

そのように遺漏の多い本書ではあるが、内外の日本文学の研究者やその愛好家に少しでも役に立つことを願うとともに、忌憚なき御叱正をも祈つてやまない。

一九九三年十月

著者

『海外の日本文学』目次

まえがき 3

I

欧米の日本文学研究管見 8

海外の日本文学研究 27

海外の日本文学研究と日本文学研究 50

II

欧米における日本中世文学の研究と紹介 74

欧米における日記文学の紹介と研究 96

欧米における古典和歌の受容と研究 128

レクラム文庫の『新古今和歌集』 156

和歌の翻訳——「源氏物語」の場合—— 174

露訳「源氏物語」二題 179

III

海外の日本文学資料 192

欧米の日本文学研究管見

本章は、『文学・語学』第八十七号(昭五五・五)の編集を担当して「外国人の日本語・日本文学研究」の特集を編んだのに寄せたものから、その編集の経緯や個々の論文についての寸評などを記した末尾部分を省いたものである。主として後半に述べた各国の研究環境(資料・文献など)や研究水準は、その後次第に向上しているが、概況・趨勢としては今でも当たっている点があるうと思ひ、ここに再録した。文中の「補注」及び「補記」は今回の加筆。

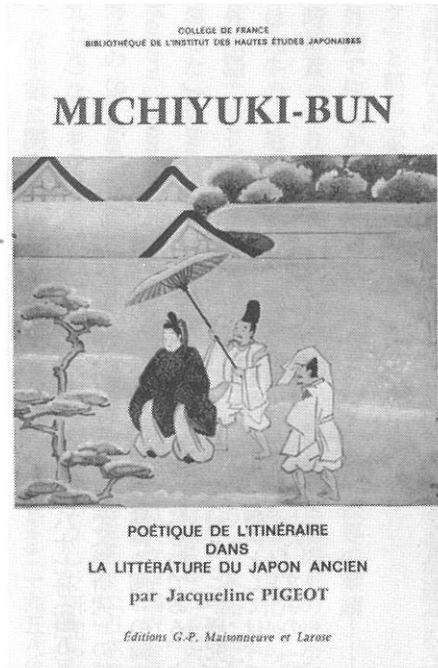
一

「外国人の日本語・日本文学研究」という今回の特集に概説・序説を書くほど、私はこの問題に精通しているわけではない。いつの間にか、種々の事情で外国の日本文学研究者と知り合う機会が多くなった上、近年僅かずつながら二度ばかり海外へ出かけて、彼等の研究状況や施設・環境等を瞥見する機会があった。一度は文部省在外研究員として一九七五年秋冬(十〜十二月)、アメリカからソ連まで十余箇国を文字通りかけ回ったも

ので、そのごく要点は『国文学研究資料館報』第六号(昭五一・三<補注、本書Ⅲの「欧米かけある記」)に短く報告したが、そこにも断つたように、その折の見聞は、もう少し具体的に詳しく報告したいと思いつつ、まだ果さずにいる(補注、それを少しでも果そうとしたのが、本書Ⅳの「国文学者の米欧回覧記」である)。もう一度は昨一九七九年秋にイタリアのフィレンツェで開かれたE A J S(後述)の大会に招かれて参加し、帰途イタリアと西ドイツの二、三の大学・図書館を訪ねたもので、これについては次節以下にいくらか述べる(補注、これについても本書Ⅲの「秋のイタリア・ドイツ」と前記「米欧回覧記」とに多少報告した)。

こういうわけで私も、日本や外国で何人かの日本文学研究者と知り合い、彼等の業績——翻訳や研究論著、時には研究史的展望など——を時折貰ったり買ったりして、今の私に読める言語のものは少しは拾い読んだり眺めたりしているが、所詮それは九牛の一毛、井蛙の見到過ぎない。日本の芸術・文化から社会科学一般に至るまで日本文学をテーマとした外国語(主として欧米語)文献の目録は何種もあり、日本語・日本文学に限っても、例えば先年日本ペンクラブが編集した *Japanese Literature in European Languages* (一九六一年、追補^{オムネット}一九六四年)や国際文化会館図書室編 *Modern Japanese Literature in Translation* (『近代文学翻訳書目』講談社インターナショナル、一九七九)、吉崎泰博氏の *Studies in Japanese Literature and Language* (『日本文学・語学研究英語文献要覧』日外アソシエーツ、一九七九など)を見ても明かなように、明治以降さうした研究や翻訳は膨大な数に上っている。そして近年の分は、欧米語に関しては *The Japanese P. E. N. News* (一九五八年七月の第一号から一九六六年三月の第一八号まで)の連載“*Japanese Literature in Foreign Languages*”や同誌(一九六七年九月の第二〇号から一九七一年九月の第二四号まで)およびそれを引継いだ *Japanese Literature Today* (一九七六年三月以降年刊)の“*Japanese Literature in European Languages*”にも見るように、ますます多くの業績が、毎年各国・各地で公表・出版されている(補注、その後、日本ペンクラブの *Japanese Literature in Foreign Languages 1945—*

I



- 欧米かけある記 196
- 秋のイタリア・ドイツ——ヨーロッパ日本研究協会第二回大会に参加して——
ソ連・東欧の最近の日本文学研究——第六回国際日本文学研究集会での見聞を主
として—— 207
- ハンガリーの日本研究——客員半年の管見—— 216
- IV
ポストン美術館の古筆・古書瞥見 225
- 国文学者の米欧回覧記 234
- 一、アメリカ 二、イギリス 三、フランス付、スイス 四、イタリア
五、ドイツ付、オーストリア 六、東欧 七、旧ソ連
- V
- (書評)アルマンド・マルティンス・ジャネイラ著『日本文学と西洋文学』 310
- 池田重氏を悼む 313
- チエーホフの観た『ゲイシヤ』 317
- あとがき 331
- 203